佐伯史談

第一二〇号

「郷土史研究」誌 通算一四二号

昭和五十四年十月二十一日

佐伯史談会

（事務所）佐伯市大字稲垣字龍護寺 羽柴方

提唱

歴史民俗資料館の建設

佐伯史談会
会長 高木嘉吉

去る八月二十五日、私を始め羽柴・平川・岩田(海)・古藤田・梁矢の五名は、佐伯史談会を代表して、佐伯市役所市長室に大鶴市長を訪問した。

大鶴新市長に表敬訪問しようということは、選挙直後から考え、みんなで話しあっていたのであるが、市長多忙のためその機会を得ず、心ならずも延引を重ねていて、やっと実現したわけである。

幸いに懇談の時が持てたので、まず私から、文化財の保護・文化団体の育成など、文化行政について一層の配慮をお願いし、羽柴副会長を始めとし、其の他諸君からも、歴史民俗資料館の建設、山際通りの武家屋敷町並み保存等について要望した。

これに対して大鶴市長は、今お為裁判所・検察庁を移転し、その跡地を公園化して郷土史料館を建設する計画であると話された。私達は、毛利家の莫大な資料や、佐伯の全域にわたる歴史民俗資料を収めて、その保存と活用をはかるためには、敷地・建物などもっと大規模のものが必要であるので、更に考慮されるようお願いした。

山際通りの武家屋敷の町並みの保存についても、前向きの姿勢で考えて見ようとのことであった。このことについては、機関誌「佐伯史談」第一一九号で羽柴副会長が、「城下町佐伯三題」として、その歴史的・文化的意義と現状を述べている。

三の丸から山際通りを経て養賢寺に至る一帯は、毛利藩三百年の歴史が凝集する所、と言っても過言ではない。

この「歴史民俗資料館の建設」については、昨五十三年十二月二十日付でその要望書を作成し、史談会の組織決定して、池田前市長に提出した。しかし程なく市長選がはじまり、

本号の主な内容

提唱 歴史民俗資料館の建設（高木嘉吉）…一
紹介 佐伯の新しい顔……二
研究 毛利氏藩重政と吉安について…一五（柳手政一郎）
研究 来聚のことについて（佐藤貫一）……九
史料 並町金之助信吉……八
史料 徴党張訴への裁断……九（文化九年百姓一揆の処罰）
研究 佐伯と田水田歩合……一一（山内武麟）
探訪 推葉・人吉の歴史と文化（古藤田）……一五
研究 中世佐伯氏の動向（柳手政）……一七
資料 南州佐伯村覚え書（矢野徳弥）……一四
記録 小田頼資三代墓記念碑（山本保）……二一
小伝 天武・秋月新太郎……二三
○因幡屋名・寄付 外

どうという反応なしに時が流れた。今回も同じものを大鶴市長して、お願いしたわけである。

佐伯文化会館が、毛利藩政の中心であった三の丸に建設されて、各種の文化活動に利用され、佐伯全地域の文化高揚の舞台となっていることは、快心のことである。

さらに、郷市民の待望久しい図書館も、市の中心部に程遠からぬところに建設されるという。好学の士に落ちついて読書し、研究や調査する場が提供されることは、嬉しいことである。

しかし、文化会館と図書館と、二本柱だけでは、佐伯の文化を支える柱として不安定である。そのもう一つの柱が、この「歴史民俗資料館」である。

藩祖毛利高政地いてすでに三百五十余年、時は刻々と流れ、世情は大きく変転し、貴重な史料はどんどん破損亡失する。前に述べた毛利家の膨大な歴史資料や、民間に散在する貴重な民俗資料も例外ではない。今にして蒐集・保存の手を打たなくては、佐伯人士は湿故（拠るきを尋ねる）の資料を失うことになる。これが私たちの「歴史民俗資料館」の建設を要望する理由である。

静かな環境、完備した施設、綜覧に収蔵された資料を、自在に調査・活用して研究出来る日を待つこと切である。

大鶴新市長の文化行政に期待しつつペンを擱く。

（おわり）

（1頁のつづき）

歩道橋を設置する。

㊃ 総事業費五億六千万円（私有地取得費は含まず）財源は佐伯市及び市民の浄財、商社の出資寄付等。

（この「報告書」寄稿を受けている会員の関賀歓迎）

郷土

佐伯の新しい顔

大手前から三の丸にかけて、どのように変ろうとしているか。
「佐伯地域商業近代化実施計画報告書」に見る——
主要点の抜書き、（番号は便宜上当方でつけた）

㊀ 佐伯市・南海部郡内の史跡名勝としては、城山・懐明台・三の丸御殿・櫓門・武家屋敷・養賢寺・国木田独歩止宿先・十三重塔・大入島・陸軍要塞跡・猪垣・暁嵐の滝等、枚挙にいとまがない程である。

㊁ これらのうちから早期整備計画の対象として、城山・櫓門・武家屋敷・農義山・中江川河畔・大入島であった。観光対象は、大分市民三五万人を中心とする県内各地の人々であり、いわゆる観光よりもレクリエーション的性格を強調し、日帰りで家族連れで楽しむ町づくりを強調した。

㊂ この場合、佐伯市を代表する顔づくりの必要性が論ぜられ、大手前を「佐伯市の顔」とすることでも各界各層の意見の一致を見た。

㊃ 藩祖以来、歴代藩公の治政が、今日の地域に於ける林業・水産業隆昌を築いたものである。大手前（一三の丸）（帯を「佐伯市の顔」とすると共に、歴代藩公を顕彰する毛利公記念公園としようとするものである。（交渉・手続きを経て、土地を確保すること決行）

㊄ 計画の内容（その主な点をまとめると——）

○大手前—三の丸の道路を20㍍に拡幅、その左手一帯を公園とする。

○従って大手前から三の丸櫓門・石垣が望見されるようになり、左側の歩道に面して日曜朝市を開設する

○公園の左斜（今の産院付近）に「郷土史料館」（三階建）、大型車場、広場、滝、池、植込みをつくる。

○今の大手前公園（寿屋前）をバスターミナルとし、今のバスターミナルの敷地を小公園とする。

○大小二つの公園、バスターミナル、寿屋を結んだ形の円型の

（上段につづく）